病院図書室　15(1):19-24, 1995

阪神大震災特集　地震と病院図書室

阪神大震災への協議会の対応

小田中　徹　也

今年1月17日未明に起きた阪神大震災（当初は兵庫県南部地震と命名されたが後に阪神・淡路大震災と変更された）は想像を絶する惨禍をもたらした。当協議会会員においても図書室担当者は幸い全員無事であったが、全会員の約2割、19の会員施設では書架の倒壊や什器の損壊、資料の散乱など大きな被害をもたらした。その後、いわゆるライフラインを中心に徐々に復旧しつつあるものの、5月上旬の現在になってようやく復旧や再建の端緒についた会員も少なくない。また、被災は比較的少なかった会員においても当初は図書室担当者が病院機能の復旧や被災者救援に従事し、図書館機能が停止した例も多い。

そこで、5,500余名の犠牲者を出し、戦後最大の惨事となった阪神大震災への当協議会の対応を順を追って紹介する。ただし、かつて経験のない未曾有の災害であったため、緊急に私だけの判断で動いた個人的体験や私情がかなり挟まれていることもご諒解いただきたい。

1月17日・京都

1月17日午前5時46分、京都市の南端に住む私は小さな揺れで目覚めた瞬間、大きな音とただ事ではない建物の揺れに身を縮めた。起きて室内を確認すると本棚に危なかしく置いてあったものは全て落ちていた。直後のTVのニュースでは被害はほとんどないかのような報道であった。震度5の京都が一番ひどかったのだろうと思い、病院図書室の散乱を予想して嫌な気分で病院へ出かけた。図書室は予想に反してほとんど何も変っていなかった。しかし、医局で見るTVニュースでは神戸の我が目を疑うような被災を伝えだした。仕事の合間をぬって見る医師たちも次第に言葉をなくしていった。

午後、電話で研修部の山室さんと1月25日に予定していた淀川キリスト教病院での第72回研修会の開催について相談した。その時点ではまだ結論は翌日まで待ってもらうことにした。翌1月18日午前、神戸市街の炎上と高速道路や鉄道の倒壊がTVに写しだされている状況から、研修会を中止することにした。総務の山崎さんに全会員へ研修会の「中止」を至急連絡するよう電話でお願いした。

1月18日～1月21日

その週、阪神地区へは電話がほとんど不通となり、市内および近隣の病院図書室とは何とか連絡がとれる状態であった。また、TVや新聞の報道は悲劇的な状況を昼夜を問わず刻々伝えていた。こうした中で特に被災地の図書室関係者の安否も心配されだした。そのうち、西宮市には会誌を印刷している小西印刷所と会員の西宮市立中央病院があり、また個人的には東京在住友人の母親が一人で住んでいた。当時、余震は懸念されたが1月20日、会誌編集部の首藤さんに週末の翌21日に西宮市へ事務局長として私が状況把握に出向くこ

こだなか　てつや：近畿病院図書室協議会事務局長

とを伝えた。また、会計の松本さんには協議会予算の予備費残高を聞き、緊急支出の上限を確認した。

1月21日・西宮

1月21日は大地震後はじめての土曜日でもあり、阪神電車の梅田駅には生活物資を背負ったお見舞いや買い出しの人々で満ちていた。西宮市内に入ると神戸へ向う緊急救援物資の輸送車が道路を埋めつくし、パトカーと救急車のサイレンが鳴りやまず、空にはヘリコプターが幾機も低空を飛びまわっていた。国道の歩道は物資を徒歩または自転車やバイクで運ぶ人々の列が神戸方面に向って延々と続いていた。私は友人の実家から借りた自転車で大きく亀裂の入った道路を地図を頼りに印刷所を探しまわった。迷いながらも工場地帯の端にある海岸近くの小西印刷所に辿りつき、関係者の方に挨拶をして無事を確認し、安堵した。

すでに夕方になっていたが、次に西宮市立中央病院へ向かった。研修会の時に一度訪れた病院でもあり、自転車では遠くはあったものの辿りつくのに迷うことはなかった。担当者の中嶋さんとは前日に公衆電話によって連絡が取れ無事であることは知っていた。その日午後も病院へ出てこられていたとの事であったが、私が訪れた時は午後6時半を過ぎ帰宅された直後だった。図書室は大学生ボランティアがかなり片付けた後とのことだったが、書架の倒壊や資料散乱の跡は歴然としていた。後に何かの資料になるかもしれないと思い無断で写真を数枚撮り、事務部を訪れお見舞いの挨拶をして病院を後にした。

1月23日～1月31日・被災状況調査

週明けの1月23日からは、阪神地区と大阪北摂地区の会員の被災状況をまず把握し、これを全会員へ報告することに努めた。総務の山崎さんと手分けしてFAXと電話による簡略な質問によって状況を問い合せた。このうち、神戸市立西市民病院についてはその被災状況がすでに報道されていたこともあり、辛い問い合わせであった。そして1月31日にようやく集計がまとまり、その日、被災状況の緊急報告を全会員に郵送で配布した。特に相互貸借での被災会員への文献申込みの停止と積極的な提供をここで会員に促した。（資料1「阪神大震災による会員の被災状況」参照）

2月15日・神戸

2月に入り、6日の平成6年度第6回幹事会において、協議会役員が分担して可能なかぎり被災地区の病院図書室を訪れ実情を把握することにした。その際、協議会からのお見舞い金を包むことにした。また、書架の倒壊など大きな被災があった会員と神戸大学附属図書館医学部分館、兵庫医科大学図書館にも同じくお見舞いを郵送した。そして2月15日には幹事の首藤佳子、山崎捷子、徳田雅子の各氏と途中から中嶋和子氏と田中文子氏が加わり、大阪からJR福知山線周りで神戸市北区の済生会兵庫病院と社会保険神戸中央病院をお見舞いに訪れた。それぞれの担当者、田中文子さんと林伴子さんは元気な様子だったが、社会保険神戸中央病院はその復旧には相当の時間と労力を要するだろうとの報告であった。

2月16日・尼崎

翌16日には、幹事の前田元也氏と私が尼崎市内の会員を訪れることにし、昭和病院、関西労災病院、兵庫県立塚口病院そして兵庫県立尼崎病院の4病院を見舞った。平日だったこともあり、順に浦野晃子さん、寺澤裕子さん、松島敦子さん、熊井亜由美さんの各担当者の方々と会うことができた。初めてお会いする顔もあったが全員、元気にされていた。尼崎市内の風景は地震の影響は一見少ないように見受けられたが、関西労災病院では図書室に至る長い廊下全体に、資料がNLMC分類で積まれ並んでいた。同行の前田さんはこれを見て感動し、「図書館員がいる！」と口に洩した。図書室に入ると荒廃した部屋の真ん中

で明るい表情で寺澤さんが片付け仕事をしていた。また、県立尼崎の熊井さんはできることであれば何でも復旧のお手伝いをしたいと申し出られた。各病院とも震災後の慌ただしい中を訪れたにもかかわらず、事務部の方々からも丁寧に迎えていただき皆さん恐縮されていたのが印象的であった。

2月18日・神戸

その週末の2月18日には、神戸市内のうちアクセスの可能性から神戸労災病院と神戸市立西市民病院を、私一人訪れることにしていた。これを聞いた西宮の中嶋さんも同行案内することになり、阪急西宮北口から神戸までの代替バスに乗った。同じ西宮市内でも阪急沿線の被害は大きく、さらに芦屋、東灘と西へ向うにつれバス窓外の風景は苛酷なものに変っていった。神戸の山の手、王子公園の隣にある神戸労災病院へ着いた時は正午をとっくに過ぎていた。前もって連絡もせず土曜日に訪れたこともあり、担当者の井川美幸さんはおられなかった。図書室を無断で見学させていただいて机の上にメモを置き、事務当直の方に挨拶して病院を出た。大地震の後にもかかわらず辺りの風景、病院のたたずまい、応急に片付いた図書室、すべてが静寂な印象であった。

そこからはタクシーを相乗りして三宮に出て、徒歩と地下鉄の乗換えを繰返し、「絶句しますよ」と相乗りの人たちが言った長田区の神戸市立西市民病院へ辿りついた。途中の風景は、ビルや道路の倒壊を目の当りにしても非現実的であったが、リュックを背負って黙々と歩く大勢の人々の列は現実的だった。JR兵庫駅を降り、焼けた街をしばらく歩いて西市民病院の前に立った時、被災者でもある中嶋さんも一言「胸が、痛む。」と呟いた。病院内へは立入り禁止になっていたが、救急入口で立ちながら一人で来訪者の応対をしている人が見えた。病院関係者の方と思いお見舞いの挨拶をすると、「副院長　松村陽右」と記された名刺をいただいた。痩身に品よく着こなされた背広とワイシャツには、震災以降の苦労が偲ばれた。臨床研修指定病院になるため3年前から準備をすすめ、そのため昨年夏には近畿病院図書室協議会に入会し、図書室に移動書架を設置した矢先だった、と話された。また、当分は病院としての機能は停止して近くの長田区役所の一角を借り数科の診療所として残るが、その後については未定とのことであった。そしてその日はちょうど病院引っ越しの日であった。私たちは、病院として必ず再建されることを念願し、また、必要な医学情報については協議会会員が提供していけることを申し上げ、夕暮れの長田の街を後にした。

2月25日・伊丹，神戸

次の土曜日の2月25日も神戸へお見舞いに行くことにした。今回は尼崎の熊井さんが同行すると申し出られた。阪神間の地理に不案内な私は心強くなり、神戸の前に伊丹へも案内してほしいと欲を出した。お陰で阪急塚口駅からバスで要領よく近畿中央病院に着き、事務当直の女性に用件を伝えることができた。ところが奇しくも、その人は図書室担当者の田中裕子さんであり、図書室を丁寧に案内していただいた。着実な復旧の構想と再建の夢を語っていた彼女も3月末で配置換えとなり、4月からは新人の方が配属されるとの連絡を、後日受けることとなった。

次にポートアイランドを目指して、この時はJR立花駅から電車に乗り、住吉-灘の間は代替バスで、また電車に乗り換えて三宮に着いた。途中、熊井さんは母校界隅のみじめな姿を車窓から黙って眺めながら、私には見せなかったが涙ぐんでいたように思う。三宮からバスで神戸市立中央病院に着くと、まず図書室を探した。病院食堂横にある図書室は鍵がかけられていたので、事務部へお見舞いに行き、担当の吉田禎夫さんへの挨拶のメモをお預けした。人手の少ない土曜日でもあり、院内協力して図書室の応急の復旧はできたとのことだったので、図書室の見学は残念なが

ら遠慮した。人工の街ポートアイランドの高層ビルは全て不思議なほど真っ直ぐ立っていた。対岸の遠くに見える神戸市街とは別世界であった。ただ、液状化の砂が至るところに溢れていた。

これでお見舞いの旅には区切りをつけた。既述のように土曜日の訪問では前もっての連絡はすべて控えた。私なりに気を遣い、担当者の方々には週末の休日は自宅の復旧や休息に当てていただきたかった。もちろん後日、各担当者の方々からはお礼の電話をいただいた。この旅では、京都へ帰ると鼻血が出たり悪夢にうなされたりもしたが、冬でも明るい光に満ちた阪神地区の街々と優しい人々に接することができたことは喜びであった。

3月・被災への支援活動に向けて

3月はじめの総会案内に同封し、当協議会では会員に「阪神大震災への支援活動予備調査」（資料2参照）を実施した。これは復旧へのボランティア活動をすすめるための準備作業であり、3月30日の平成6年度第21回総会では、被災会員への支援活動を今年度の大きな活動方針の一つとした。すでに文献提供では各図書室が積極的に協力しているが、被災病院の受入体制が整った5月上旬現在、ようやく資料整理などの労務提供を実施する段階に入った。これについて当協議会では参加者の災害保険の加入と交通費については負担することにした。今後とも会員の皆様のご協力と支援を切にお願いするものである。

最後に、地震の直後から各地の病院図書室関係者の方々から安否を気遣う問合わせやお見舞いがあった。特に病院図書室研究会からは当協議会宛に多額なお見舞金をいただいた。また、会員間でも被災地域の会員の安否の問合わせや、支援の申し出が相次いだ。これらのご厚情に心から感謝するとともに、いただいた義援金は被災会員の図書室復興のため有効に使いたいと考えている。さらに、先にお見舞いした会員病院や医学図書館からは後日、丁寧なお礼状をいただいた。恐縮するとともに、被災された病院や図書館の一日も早い復興をお祈りいたします。

(資料-1) 阪神大震災(兵庫県南部地震)による会員図書室の被災状況

(平成7年1月23日～1月31日にFAXと電話で問合わせ)

病院名	担当職員の被災	図書室の床、壁、窓ガラスなどの被災	書架の倒壊や資料の散乱	コピー機やOA機器の破損	電話・FAXの使用	郵便物の発送・受け取り	相互貸借	その他、特記事項や要望
大阪厚生年金病院	○	○	●	○	○	△	●	ビス止めしてあった書架のみ無事で、残りは全て倒壊、応急の復旧作業中
住友病院	○	●	●	○	○	○	○	応急の復旧はできたが、床にはひび割れがある
日生病院	○	○	●	○	○	○	○	
行岡保健衛生学園	○	●	●	○	○	○	●	2週間で一応の復旧をみたので、2月から学生は利用できるようになった
高槻赤十字病院	○	●	○	○	○	○	△	病院全体が救援、被災者の受け入れなどで混乱しており、図書室関係外の業務も多い
西淀病院	○	●	●	○	○	○	○	図書室は一応、復旧したが、別置の雑誌バックナンバーは未整理
藍野学院短期大学	○	●	○	○	○	○	○	
社会保険神戸中央病院	○	○	●	?	?	○	●	コンピュータやFAXにたどりつけない程の倒壊と散乱、復旧には数ヶ月かかりそう
昭和病院	○	○	●	○	○	○	●	蔵書は全て散乱し、応急の復旧にも至っていない
兵庫県立塚口病院	○	●	●	○	○	○	●	水浸しになって使えない資料がかなりある
西宮市立中央病院	○	●	●	○	○	○	△	書架すべて倒壊、大学生ボランティアの援助で応急の復旧はしたが、書架は取り替え修理が必要
関西労災病院	○	○	●	?	○	○	●	院内の協力を得て、応急の復旧作業にようやく取りかかった
済生会兵庫県病院	○	○	●	●	○	●	●	かなりの病院職員が被害を受け、他部門の手伝いのため図書室の復旧ができない状態
公立学校共済組合近畿中央病院	○	○	●	○	○	○	●	書架の倒壊を機に、場所の確保か蔵書の処分を検討中、廃棄基準があれば教えて欲しい
神戸徳州会病院	○	●	●	○	○	○	●	
神戸労災病院	○	○	●	○	○	●	●	足の踏み場がないほど倒壊・散乱、復旧の見通しは立っていない。図書室職員は病院に宿泊
兵庫県立尼崎病院	○	○	●	○	○	○	○	幸い大きな被害はなかったので、手伝えることがあれば連絡を
神戸市立中央市民病院	○	○	●	●	△	△	●	書架や資料の再利用の見通しは立っていず、郵便やFAXの受信状態も正常かどうか不明
明石市立市民病院	○	○	●	○	○	○	●	応急の復旧はできたが、相互貸借は無理
神戸市立西市民病院	○	●	●	●	●	●	●	現在、病院としての機能は停止、再建の見通しは不明。図書室は立ち入り禁止、担当者は自宅待機
西神戸医療センター	○	●	●	○	○	○	●	

(記号) ○: 被災無し、または通常に機能
●: 被災有り、または機能停止
△: 制限つきで機能
?: 倒壊・散乱のため確認できない

(注) 回答のうち、被災のあった会員のみを会員名簿順に掲載しました
「その他、特記事項や要望」は、事務局で要約してあります
相互貸借の可能な会員でも、罹災した会員へは文献依頼を遠慮してください
相互貸借の不可能な会員へも、文献の要望があれば優先的に提供してください

阪神大震災への支援活動予備調査(1995/3/6)　近畿病院図書室協議会

施設名：
氏名：

（お願い）阪神大震災による被災会員への支援活動を進めるため、会員の皆様に、支援の受入れ希望または提供の申出について予備調査を致します。支援活動について提供や受入れの希望がありましたら、ささやかな事柄でも遠慮なく該当する欄に、簡略に記入してください。

		労務提供 資料の整理や排架作業、 什器やOA機器の設定など	図書館機能の代行 文献の検索や入手、 その他の参考調査など	資料の支援 雑誌や単行書の寄贈	機器物品の支援 機器や物品の寄贈	その他
支援の受入	内容					
	方法					
	時期					
	備考					
支援の提供	内容					
	方法					
	時期					
	備考					

返送先：事務局（国立京都病院図書室）

(資料-2)